

第19回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時：平成28年2月23日（火）14：00～16：00

2 場 所：総務省10階総務省第1会議室
千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館

3 出席者：（委員）

- ◎ 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）
- 黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
- 兼川 真紀（弁護士）
- 斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
- 榑 誠（公益財団法人あしたの日本を創る協会理事長）
- 高山 正也（独立行政法人国立公文書館フェロー）
- 名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

佐伯 修司 官房審議官
河合 暁 管理室長
両角 明 企画官

4 議事次第

- （1）「平成28年度平和祈念展示資料館運営業務について（案）」の説明
- （2）「平成28年度平和祈念展示資料館運営業務計画（案）」の説明

5 議事要旨

- （1）「平成28年度平和祈念展示資料館運営業務について（案）」の説明
資料2に基づき、事務局から説明が行われた。
- （2）「平成28年度平和祈念展示資料館運営業務計画（案）」の説明
委託事業者から説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 体験者が少なくなる中、語り部活動の新たな方法として行っているタレントによる読み聞かせや一人芝居は、実話に基づいているということで魅力がある。もっと聞きたい、見たいという人を増やすため、CGの背景などを組み合わせると迫力あるものができるのではないか。
- 展示の内容等について、世代別に伝え方を変えていく必要があるだろう。パンフレットや展示の解説などにおいて、世代別の伝え方について基準づくりをしようか。
- 三労苦のうち、兵士の労苦の説明は工夫しないといけないだろう。分かりやすく伝えることは簡単なことではないが、三労苦それぞれの大変さの違いが分かるよう知恵を出して説明いただきたい。
- 博物館や資料館の活動は、記憶を次世代に継承していくことである。継続して活動を行うことにより、できるだけ多くのことを伝えていくことが大事である。
- インターンシップや学芸員資格課程館園実習の受入れを通して、大学との連携を続けていただきたい。
- 日本への外国人旅行者も増えていることから、当館も海外への情報発信として、英語版のホームページを作ってはどうか。
- 資料の劣化防止や破損の修復も大事であるが、資料のデジタル化も進めていただきたい。
- 記憶の継承という意味で、体験者の方が自費出版している文集などは貴重である。総合目録は、このような資料を系統的に調べることができるようなものにしていただきたい。
- 総合目録をデータベース化するにあたっては、国際標準として必要な要素がいくつかあるので十分に検討いただきたい。